２０２４年 ＮＰＴ再検討会議・準備委員会 参加結果（概要版）

Ⅰ．サイドイベント

１　在ジュネーブ国際機関代表部説明会「グローバル目標としての核兵器なき世界の推進」

（１）主　催：長崎県、広島県、HOPe
（２）日　時：令和６年７月２３日（火）１６：３０～１７：３０
（３）場　所：国連ジュネーブ事務所
（４）開催目的：2030 年までに策定予定の次期国連グローバル目標（ポスト SDGs）における核兵器廃絶目標への合意に向けて、今後、政府間のフレンズ・グループの形成を念頭に、国連加盟国で新たな潮流をつくるきっかけとする。
（５）出席者：湯﨑　英彦　広島県知事
馬場　裕子　長崎県副知事
島田　久仁彦　へいわ創造機構ひろしまプリンシパル・ディレクター
樋川　和子　長崎大学核兵器廃絶研究センター　副センター長
（６）説明会における主な意見

- 平和を希求する人々の間で共通の目標を提唱し続けることが重要である。
- 人道的側面に関する認識を高めることが、核抑止とリスク削減のための科学的根拠の一つになるのではないか。
- 今回提示されたビジョンだけでなく、2045 年までに目標を達成するうえでより具体的な目標やステップ、更なる発展を想定したアプローチが必要である。

２　パネルディスカッション「グローバル目標としての核兵器なき世界の推進」

（１）主　催：オーストリア政府、長崎県、広島県、ユニタール
（２）日　時：令和６年７月２４日（水）１３：１５～１４：３０
（３）場　所：国連ジュネーブ事務所
（４）開催目的：核兵器の人道的・環境的影響についてあらためて考え、核兵器のない世界を実現するための共同作業の重要性を認識するきっかけとする。
（５）出席者：湯﨑　英彦　広島県知事
馬場　裕子　長崎県副知事
ニキル・セス　国連事務次長補兼ユニタール総代表
デジレ・シュヴァイツァー　国連オーストリア常駐代表
樋川　和子　長崎大学核兵器廃絶研究センター　副センター長
ヴァネッサ・キャノラ　国連軍縮部「核兵器のない世界のためのユース・リーダー基金」第１期生
（６）パネルディスカッションにおける主な議論

- 核兵器禁止条約（ＴＰＮＷ）は、核兵器から脱却するための道筋と説得力のある根拠を提供する。
- 私たちの直面している全ての問題は、競争や利益追求システムなどにより引き起こされている。人間の尊厳、連帯、民主主義、持続可能性といった共通の価値観は、社会の変革や、全ての問題解決の促進につながるのではないか。
- 存亡の危機にある未来は、若者を交えて決める必要があり、若者の視点を取り入れることが重要である。彼らの意見を純粋に評価する環境を整えることが必要だ。

３　ナガサキ・ユース長崎県主催イベント
「Bring Your Piece of Peace for Dialogue – With Nagasaki Atomic Bomb Exhibition @UNOG-」

（１）主　催：ナガサキ・ユース代表団 12 期生
（２）日　時：令和６年７月２４日（水）１５：４５～１７：１５
（３）場　所：国連ジュネーブ事務所
（４）概　要：ナガサキ・ユースが、核兵器廃絶に取り組む国際 NGO や外交官等と平和への想いを語り合う。長崎の人々の想いを世界に伝え、また様々な立場にある参加者の想いを理解しあいながら、その想いを参加者全員で T シャツに寄せ書きの形で表現する。このイベントの開催を通じて、核兵器廃絶に取り組む人々のつながりを作り出していく。
（５）出席者：ナガサキ・ユース代表団　５名
馬場　裕子　長崎県副知事
鈴木史朗　　長崎市長
メリッサ・パーク　ICAN 事務局長
調　漸　　核兵器廃絶長崎連絡協議会会長
（６）イベントにおける主な発言
- 長崎を訪れた際の被爆体験講話や被爆した少年の写真は印象に強く残っている。
- 被爆者が幼少期に経験した被爆の実相は、核兵器が子供たちに与えるインパクトがいかに大きいかを知る上で非常に重要である。
- 核兵器禁止条約はどんな国でも参加でき、核なき世界実現の道筋を立てるうえで重要な条約である。
- 現在の混沌とした状況下にあるからこそ、原点に立ち返り、原子雲の下で実際に起きたことを認識することが大事である。

Ⅱ．軍縮関係者との面会

１　ニキル・セス国連事務次長補との意見交換

（１）日　時：令和６年７月２４日（水）１３：１５～１４：３０のサイドイベント終了後
（２）場　所：国連ジュネーブ事務所
（３）出席者：ニキル・セス　国連事務次長補兼ユニタール総代表
　　馬場　裕子　長崎県副知事
（４）概　要：
・次期 SDGs のゴールに核廃絶を位置づける必要性について、意見交換を行った。セス氏からは、次の SDGs の見直しの際に、核廃絶をゴールに入れることを日本政府に働きかけることが必要であるが、単独の国では難しいので、同志となる国を探すことが必要との話があった。

２　メリッサ・パーク事務局長との意見交換

（１）日　時：令和６年７月２４日（水）１５：４５～１７：４５のサイドイベント内
（２）場　所：国連ジュネーブ事務所
（３）出席者：メリッサ・パーク　ICAN 事務局長
　　馬場　裕子　長崎県副知事
（４）概　要：
・次期 SDGs のゴールに核廃絶を位置づける必要性について、意見交換を行った。パーク氏からは、次期 SDGs のゴールに核廃絶を位置づけることは良いアイデアであり、そのためには日本政府の支持が必要との話があった。

３　市川軍縮大使との意見交換

（１）日　時：令和６年７月２３日（火）１０：００～１０：３０
（２）場　所：国連ジュネーブ事務所
（３）出席者：市川　とみ子　軍縮会議日本政府代表部常駐代表
　　湯﨑　英彦　広島県知事
　　馬場　裕子　長崎県副知事

（４）概　要：

・核兵器を取り巻く国際情勢の今後の展望や、ＮＰＴの会議の様子などについて、意見交換を行った。大使からは、国際情勢が悪化している分、核兵器のもたらす悲劇について、耳を傾けてもらえる機会が増えているものの、各国の軍縮・不拡散分野の担当者にも冷戦期や被爆の実態を知らない人が多くなってきているため、外交官の広島・長崎への訪問を促していきたいとの話があった。

４　ブルース・ターナー軍縮大使との意見交換

（１）日　時：令和６年７月２３日（火）１２：１５～１２：４５
（２）場　所：国連ジュネーブ事務所
（３）出席者：ブルース・ターナー　軍縮会議米国政府代表部常駐代表
　　湯﨑　英彦　広島県知事
　　馬場　裕子　長崎県副知事
（４）概　要：

・核兵器を取り巻く国際情勢、とりわけ核兵器保有国間の現状について、意見交換を行った。大使からは、米国の政策やリスク低減に向けた取組について説明があった。その上で、核廃絶を実現するために、米ロ間、米中間の合意と透明性が必要になるとの認識が示された。

５　アカン・ラフメトゥリン議長との意見交換

（１）日　時：令和６年７月２３日（火）１４：１５～１４：４５
（２）場　所：国連ジュネーブ事務所
（３）出席者：アカン・ラフメトゥリン　NPT 準備委員会議長
　　湯﨑　英彦　広島県知事
　　馬場　裕子　長崎県副知事
（４）概　要：

・核兵器を取り巻くＮＰＴでの議論の状況などについて、意見交換を行った。議長からは、現在二極化している状況だが、今回のＮＰＴでは、成果を出せるように尽力しているとの説明があった。

Ⅲ　その他の活動

１　日本政府主催レセプションへの参加

（１）日　時：令和６年7月２２日（月）１９：００～２１：００
（２）場　所：在ジュネーブ国際機関日本政府常駐代表大使公邸
（３）参加者：高村外務大臣政務官、中満国連事務次長、市川軍縮大使、馬場長崎県副知事、湯崎広島県知事、鈴木長崎市長、長崎・広島のユース等
（３）概　要：
・ＮＰＴ準備委員会に参加する本県と広島県が、核軍縮への理解を深めるために日本政府が主催したレセプションに参加し、核兵器廃絶に取り組むユースたちを激励した。

２　広島県主催サイドイベント傍聴

（１）日　時：令和６年7月２４日（水）１０：１５～１１：４５
（２）場　所：国連ジュネーブ事務所
（３）テーマ：核抑止の代替案：核兵器なき世界に向けた提案
（４）出席者：秋山 信将　一橋大学国際・公共政策大学院法学研究科教授
湯﨑 英彦　広島県知事
ティティ・エラスト　　ストックホルム国際平和研究所 上級研究員
ルーカシュ・クレッサ　英国王立防衛安全保障研究所　ディレクター
ポリーナ・シノヴェツ　オデーサ不拡散センター 所長
（５）イベント概要：
・核なき世界という目標に向け、核軍縮に関する中長期的視点をもつことの必要性や、実行可能な核抑止に代わる安全保障の在り方を探るパネルディスカッションに参加した。